



京都府における犯罪情勢と犯罪抑止に向けた取り組み

京都府警察本部生活安全部生活安全企画課長 普光江 邦



1 はじめに

京都府における刑法犯認知件数は、平成14年に戦後最多の65,082件を記録しましたが、地域住民、自治体、事業所等の関係機関・団体等と連携した取組を推進した結果、コロナ渦であった令和3年には戦後最少の10,483件まで大きく減少しました。

しかしながら、令和4年に18年ぶりに増加に転じた後は、昨年まで4年連続で増加するなど予断を許さない状況にあり、本年も刑法犯認知件数の総量抑制及び府民の体感治安を向上させる取組を府警一丸となって進めています。

2 京都府の概要

京都府は、千年以上にわたり日本の都として栄えた歴史を持ち、清水寺・金閣寺・伏見稲荷大社など、世界的に知られる寺社仏閣が数多く残っています。また、茶道や和菓子、京料理などの伝統文化や食文化は、日本文化の中心的存在として国内外を問わず高く評価されています。

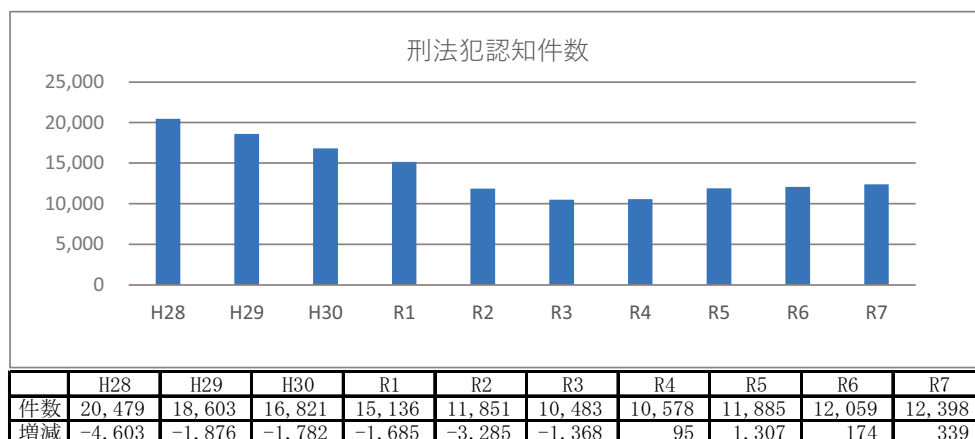
さらに、府北部の日本海側は天橋立や伊根の舟屋などを有する「海の京都」、中部は里山や自然体験が楽しめる「森の京都」、南部の宇治・山城地域は宇治茶の産地として知られる「お茶の京都」として魅力発信が進められており、国内外から多くの観光客が訪れる日本有数の観光地です。

3 京都府の犯罪情勢

(1) 刑法犯認知件数

京都府の刑法犯認知件数は、前記のとおり、令和4年に増加に転じており、令和7年中も12,398件（前年比+399件、+2.8%）と増加しています。

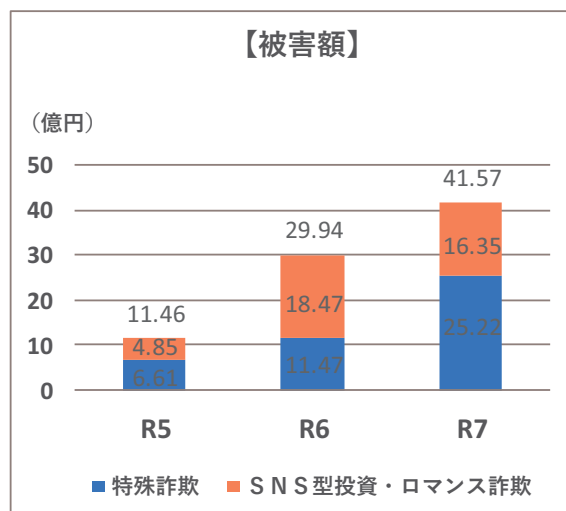
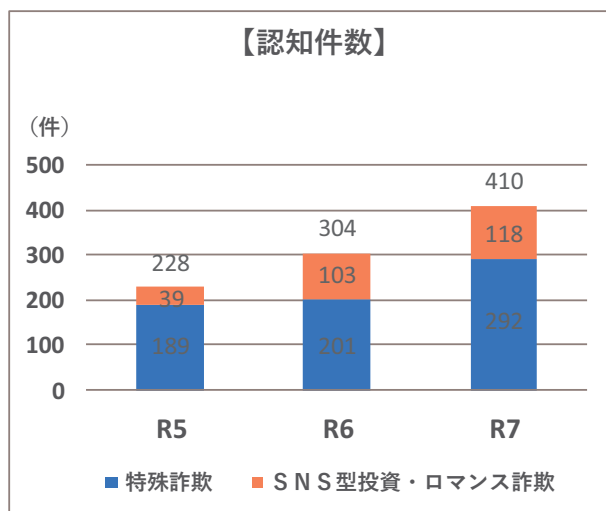
特に、万引き及び詐欺の増加が顕著であり、全国と同様に、特殊詐欺被害の急増も極めて深刻な状況です。



(2) 特殊詐欺等の被害状況

令和7年中の京都府内におけるSNS型投資・ロマンス詐欺を含む特殊詐欺の認知件数は410件、被害総額は約41億5,700万円で、前年比+106件、+約11億6,300万円と過去最悪を記録しています。本年の被害状況も昨年を大きく上回る勢いで認知しており、大変厳しい情勢です。

昨年中は、警察官をかたる手口の被害が急増し、認知件数は204件、被害額は約21億3,100万円と、特殊詐欺(SNS型投資・ロマンス詐欺を除く。)の被害総額の約85%を占め、その被害は高齢者だけでなく、若年層にまで広がっています。また、犯行に使用された電話のうち、約7割が「+」から始まる国際電話の番号となっています。



4 防犯対策の推進

(1) 特殊詐欺等の対策

特殊詐欺の被害防止対策では、犯人からの接触の阻止、金融機関等との連携強化のほか、府民が被害に遭わないための広報啓発等を推進しています。

犯人からの接触を阻止するための取組としては、警察庁推奨アプリの普及促進に努めているほか、自治体等と連携した防犯機能付き電話機の普及の推進や、関係機関・団体、事業者等に協力いただき、府民の方々が日常的に立ち寄るスーパー、役所、金融機関等にブースを設置するなど、国際電話利用休止の申込み支援を行っています。

金融機関等に対しては、声掛け訓練等を通じて、被害に遭っている可能性のある方が来店した際の速やかな通報を依頼しているため、昨年中は、332件、約8億7,400万円の被害を水際で止めることができました。また、京都府内に本店を置く11の金融機関や、ネット専門銀行13行との情報連携協定に基づいて、各金融機関から被害に遭っている可能性がある口座名義人の情報等を提供いただき、速やかに口座名義人と接触するなど、被害防止等に関する取組を行っています。

広報啓発として、様々な詐欺の手口、形態や騙されないための注意点などについて、公式ホームページ、各種SNSや、巡回連絡、防犯セミナーなど、あらゆるツールや機会を通じて、繰り返し情報発信を続けています。

(2) 侵入盗対策

京都府における侵入盗被害については、令和7年は住宅や空き家で多く発生しており、無施錠の窓や施錠されている窓ガラスを壊して侵入されるケースが多くなっています。

侵入盗対策として、防犯意識の向上を図るため、防犯教室等を通じて侵入盗の犯人が嫌がる「時間、光、音、人の目」からなる「防犯の4原則」等を、府民の方々に防犯指導し、地域防犯力の向上を図っています。

また、被害多発時や特異な被害発生時においては、防犯・犯罪情報メール等の媒体を使用したタイムリーな情報発信を行っています。

その他、自治体や事業者、府民等に対する防犯カメラの設置を働きかけ、防犯性能の高い建物錠（CP錠）の普及促進等を中心に各種広報啓発活動を推進し、侵入盗被害防止に取り組んでいます。

(3) 自転車盗対策

令和7年中の京都府内における自転車盗認知件数は2,958件であり、刑法犯認知件数の約24%を占めています。施錠したにもかかわらず被害に遭っている場合もありますが、無施錠で駐輪中に盗まれた自転車が約72%に上ることから、各種活動を通じて自転車を降りたら必ず鍵をかけることを啓発しています。

また、被害者の職業別で見ると大学生が約27%を占め、被害場所別では住宅が約47%となっています。このことから、大学生に対するオリエンテーションや防犯教室の際には、大学などの外出先だけではなく、帰宅後や友人宅でも必ず施錠するよう呼びかけています。

5 一般社団法人京都府防犯設備協会と連携した取組

令和2年度から予算措置を行い、警察署からの派遣要請に基づき、子供見守り活動に従事する各種ボランティア、子供の活動の場となる学校、公園、商業施設等の施設管理者や集合住宅の所有者、管理者等に対して助言指導等を行う「防犯アドバイザー（※）派遣事業」を実施しています。

（※防犯設備等に精通し、総合防犯設備士等の資格を有する者のうち、一般社団法人京都府防犯設備協会が認証し委嘱している者。）

6 情報発信に向けた取組

防犯・犯罪情報メール、京（みやこ）すぐメール、Yahoo!ぐらし防犯情報のほか、X等のSNSを用いて防犯情報の発信を行っています。

文字情報を中心にタイムリーな情報発信ができる防犯・犯罪情報メール、犯罪の発生状況を示すグラフや防犯ポイントを示すイラスト等視覚に訴える資料の発信が可能な京すぐメール、一度に多数の住民に情報配信できるYahoo!ぐらし防犯情報、フォロワーのリポストによる情報の広範な伝播等SNSの特性が活かせるXを用い、効果的な情報発信を推進しています。

7 結びに

公益社団法人日本防犯設備協会の皆様には、日頃より警察行政の各般にわたり、深いご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

当府警察といたしましては、一般社団法人京都府防犯設備協会の皆様との連携を一層深め、安全で安心な京都府の実現に向けた諸対策を推進してまいりますので、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。